

『神の愛への招き』ヨハネの福音書 3章16～21節 2017.6.11(聖日礼拝説教より)

『神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。』Ⅱコリント 6:2

❶**神の御心は私たちを愛すること**…ヨハネ 3章 1～8 節に「御霊による新生」、9～15 節に「御子の贖い」、16～21 節に「父なる神の愛」が記される！『神は愛された』とは、歴史のある出来事を指している！あの日、あの時、あの場所で！約 2000年前、イスラエルのゴルゴタの丘で「独り子を与えるほどに」愛した、あの十字架を指差し、「あそこわたしは、あなたがたに対する愛を示した」と神は言われる！『世を愛された』とは、すべての人が愛の対象のことだが、その世は、罪に汚れ、悪に染まり、神に背いた世…。神はその世を愛された(ローマ 5:8)。そこまでして成し遂げたい目的は16節『御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠の命を持つため』である。『ひとりとして滅びることなく！』とは、『その神の愛(犠牲)がなければ、私たちは滅びる運命だった』こと、そして『その救いは、全ての人に開かれている』こと。しかし人々はその救いに来ない！19節『光が世に来たのに、人々は闇を愛した』…その結果、18節『御子を信じる者はさばかれない。信じない者は…すでにさばかっている』。あなたの決断が、今のあなたの救いも滅びも決めている！つまり、『永遠の命』も『永遠の滅び』も、死んでから先のものでなく、すでに『今』決まっているという。『今』神は、あなたに語りかけられる…『わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた』確かに、今は恵みの時、今は救いの日です(Ⅱコリント 6:2)』。

❷**神の救いを信じる2つのステップ**…(1)『神は、ひとりも滅びることを願わない！御子は、私たちを裁くためではなく、救うために世に来られた！あの十字架は、私の罪の身代わりだった(Ⅰコリント 15:3～4)』と、まず頭で理解する。(2)その約束を信頼して自分のものとする！死んだらどうなる？死んでみるとわからん！その不安は、神の約束を信頼して「今」安心に変えられる！すぐ不安になって、平安を失う私たちに聖書は語る。『彼に信頼する者は、失望させられることがない(ローマ 10:11)』。父なる神は言われる！「胎内にいる時から白髪となるまで、変わらずわたしはあなたを背負い、救い続ける(イザヤ46:3～4)」と。この神の約束を信頼し、この方と共に生きる時、永遠の命の祝福が、『今』あなたのもっとされる。
★あなたは、この愛の招きにすでに応えただろうか？あらゆる心配から解放される平安が、まず、神の言葉を信じたあなたに！そして神に救われたあなたを通して隣人に届くように！